

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年12月2日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから12月2日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

まず、2ページ目の12月6日の（5）、第1098回審査会合です。

議題は1つで、泊3号機の許可ということで、前回11月1日に引き続き、耐津波設計ということになります。

次に、3ページに行きまして、12月7日の（7）、特定原子力施設、1F（福島第一原子力発電所）の審査会合ですけれども、議題は2つありまして、1つ目がALPS（多核種除去設備）の海洋放出時の運用に関する変更認可の件ということで、これは前回11月21日の続きということになります。

2つ目が、地すべりの可能性の検討とあると思えますけれども、これはもともとは9月21日の委員会で、石渡委員から、1Fの付近に地すべり跡があるのだけれども、それを調査すべきという意見があったことに伴いまして、東電のほうで調査した結果を報告するというものになります。

次が、12月8日の（9）、1Fの廃炉事故調査に係る連絡調整会議ということですが、議題は2つで、1つ目は、1号機の格納容器内部調査、いわゆるペデスタルの鉄筋の件ですけれども、これはその直前、12月5日に事故分析検討会がありますけれども、そこと同じ議題で同じ内容の報告ということになります。

2つ目は、その件の試料分析について、現場と同じようなコンクリートのサンプルで分析をしたいという提案が規制庁のほうからありまして、そのサンプルを用意してほしいといった議題になります。

次が、12月8日の（10）、炉安審（原子炉安全専門審査会）・燃安審（核燃料安全専門審査会）の合同の基本部会です。

任期が更新された新メンバーでの初の会合ということになります。

議題は6つありまして、1つ目、2つ目は、部会長の選任など事務手続的なものです。

3つ目は、先日11月22日の委員会で改定されました調査審議事項の改定について説明があります。

4つ目は、定例の安全性向上評価の報告ということで、今回、四国電力から説明があります。

5つ目も、定例の原子力規制検査の上半期の報告ということになります。

今回、指摘事項は関電が多かったので、関電の方も出席していただいて質疑参加ということになっています。

6つ目も、定例の技術情報検討会の結果の報告ということになります。

次が、4ページ目ですが、12月9日の（11）、第1099回の審査会合です。

議題は2つで、1つ目が敦賀2号機の新規制基準の許可ということで、審査は長く止まっていたけれども2年ぶりの開催ということになります。改善された体制とかプロセスの報告や調査データの確認ということ。あと、今後の審査スケジュールなどの確認があります。

2つ目は、島根2号機の地震動評価についてということで、これは申請があつてということではなくて、地震本部から日本海南西部の活断層の新しい長期評価がありまして、許可に影響がないかという確認ということになります。

そのほか、特重とか第3電源の今後の審査スケジュールの確認もあるということです。

最後、4のその他のところですけども、日中韓の原子力安全規制者会合ということで、これは毎年やっているものですけども、3ヶ国の規制当局の意見交換ということになります。日本から伴委員が参加します。内容は非公開です。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

ヨシダさん。

○記者 毎日新聞のヨシダです。

12月8日の連絡調整会議ですけども、ちょうどこの頃、1号機の内部の調査が再開されていると思うんですけども、その辺に関する話というのは、この日は何か出るのでしょうか。

○黒川総務課長 余りこの日はその中身は出ないと聞いています。

○記者 ありがとうございます。

○司会 そのほかにも御質問はいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

-了-